ようこそ！
国立極地研究所 南極・北極科学館
夏の企画展示へ

「石の上にも三年」、「石橋をたたいて渡る」など、石には固く、
冷たいものの代名詞のような響きがあります。
融通の利かない人のことを「石頭！」なんて呼んだりもしますね。
それでいてどこにでもあって、時には邪魔者扱いされたり、
世間からはあまり大事にされていないような気もします。
　一方で、誕生石に代表される宝石は、身につけることで悪霊を追い払い、
幸運が舞い込む、と信じられたりしていました。
　また、鉄鉱石やレアアースなどは、我々の生活にはなくてはならない
鉱物資源として現代社会を支えています。

地質学者にとっては、石は地球の変動を自ら経験し、それを記憶している生き証人です。
物言わぬ石に地球の過去を語ってもらおうと、地質学者は地の果てであっても出かけていき、
石を通じて地球に起きた壮大なドラマを探ります。

今回の企画展示では、
南極大陸各地から採集された石たちが、
自らの生い立ちを語ってくれます。
そのつぶやきに耳を傾けてみませんか。
そこから見えてくるものは、
私たちが本当に知りたい地球の姿かもしれません。

国立極地研究所 広報室長（2017 年当時）
本吉 洋一